

### ミニトマト

農薬取締法上では、果実の直径3cm以下のものを「ミニトマト」としている。

「トマト」に適用があっても「ミニトマト」に適用のない農薬もあるので注意すること。

注) マルハナバチに対する農薬の影響は、XVI参考資料を参照。

—— 発病・加害時期  
 == 発病・加害最盛期

作型・病害虫名		月											
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
加温周年(養液)		---加温---□ ●▲ は種定植											
葉かび病	すすかび病	—————											
疫	病	—————											
灰色かび病	うどんこ病	—————											
ウイルス病(黄化葉巻病)		—————											
アブラムシ類	オオタバコガ	—————											
ハスモンヨトウ	コナジラミ	—————											
ハダニ類	トマトサビダニ	—————											
ハモグリバエ類	トマトキバガ	—————											

### 葉かび病

#### 留意事項

- 1 過湿条件で発生しやすい。
- 2 多発時には防除が困難であるため、予防的散布が大切である。
- 3 草勢が衰えると発生しやすい。
- 4 薬剤耐性菌が出現しやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
- 5 ベルコートフロアブルは眼に刺激性があるので注意する。
- 6 QoI剤(11)、SDHI剤(7)は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。
- 7 すすかび病と病徴が似る。葉かび病のみに登録のある薬剤で効果が見られない場合、両方に登録がある薬剤か、すすかび病に登録のある薬剤の散布を行う。

注1: 同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2: 異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

## 防除方法

- 1 密植を避ける。
- 2 施設栽培では、過湿にならないように、かん水、換気、温度管理に注意する。
- 3 被害葉は、早めに除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 4 葉かび病抵抗性品種を利用する。
- 5 発生が見込まれる時期に、下記の薬剤を予防的に散布する。
  - ・ [ダコニール1000](#) M5 【1000倍 前日／2回】
  - ・ [ベルコートフロアブル](#) M7 【4000倍 前日／2回】
- 6 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [トリフミン水和剤](#) 3 【3000～5000倍 前日／5回】
  - ・ [ホライズンドライフロアブル](#) 11 27 【2500倍 前日／3回】
  - ・ [アフェットフロアブル](#) 7 【2000倍 前日／3回】
  - ・ [カリグリーン](#) NC 【800倍 前日／－】
- 7 ハウス内では、くん煙剤の使用も有効である。(XⅡ省力安全防除 1(1)参照)

## すすかび病

### 留意事項

- 1 過湿条件で発生しやすい。
- 2 多発時には防除が困難であるため、予防的散布が大切である。
- 3 ベルコートフロアブルは眼に刺激性があるので注意する。
- 4 QoI剤(11)、SDHI剤(7)は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。
- 5 薬剤耐性菌が出現しやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
- 6 葉かび病と病徴が似る。すすかび病のみに登録のある薬剤で効果が見られない場合、両方の病害に登録がある薬剤か、葉かび病に登録のある薬剤の散布を行う。

### 防除方法

- 1 密植を避ける。
- 2 施設栽培では、過湿にならないように、かん水、換気、温度管理に注意する。
- 3 被害茎葉は、早めに除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 4 発生が見込まれる時期に、下記の薬剤を予防的に散布する。
  - ・ [ダコニール1000](#) M5 【1000倍 前日／2回】
  - ・ [ベルコートフロアブル](#) M7 【4000倍 前日／2回】
- 5 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [トリフミン水和剤](#) 3 【3000倍 前日／5回】
  - ・ [ファンタジスタ顆粒水和剤](#) 11 【2000～3000倍 前日／3回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- ・ [パレード20フロアブル](#) 7 【2000倍 前日／3回】

## 疫病

### 留意事項

- 1 低温（20℃前後）で多雨が続くと、発病が多くなる。
- 2 予防的散布が大切である。
- 3 QoI剤（1 1）は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。
- 4 薬剤耐性菌が出現しやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

### 防除方法

- 1 なす科作物（なす、トマト、ピーマン、ばれいしょ等）の連作を避ける。
- 2 被害茎葉・被害果は、早めに除去するとともに、被害株は収穫後、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 3 浸水を避け、排水を良好にし、窒素質肥料の過用を避ける。
- 4 発生が見込まれる時期に、下記の薬剤を予防的に散布する。
  - ・ [ランマンフロアブル](#) 2 1 【1000～2000倍 前日／4回】
  - ・ [ペンコゼブフロアブル](#) M 3 【1000倍 前日／2回】
  - ・ [ピシロックフロアブル](#) U 1 7 【1000倍 前日／3回】
- 5 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [プロポーズ顆粒水和剤](#) M 5 4 0 【1500倍 前日／2回】
  - ・ [ホライズンドライフロアブル](#) 1 1 2 7 【1500～2500倍 前日／3回】
  - ・ [レーバスフロアブル](#) 4 0 【2000倍 前日／3回】

## 輪紋病

### 留意事項

- 1 施設栽培で発生が多い。
- 2 高温乾燥時に発生が多い。
- 3 予防的散布が大切である。
- 4 SDHI剤（7）は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

### 防除方法

- 1 なす科作物（なす、トマト、ピーマン、ばれいしょ等）の連作を避ける。
- 2 肥料切れしないように肥培管理に注意する。
- 3 被害株は早めに除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 4 発生が見込まれる時期に、下記の薬剤を予防的に散布する。
  - ・ [ダコニール1000](#) M 5 【1000倍 前日／2回】
  - ・ [ペンコゼブフロアブル](#) M 3 【1000倍 前日／2回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- 5 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
- ・ [ロブラール水和剤](#) 2 【1000倍 前日／3回】
  - ・ [ネクスターフロアブル](#) 7 【1000倍 前日／3回】

## 灰色かび病

### 留意事項

- 1 低温（20℃前後）で多湿時に発生が多い。
- 2 ベルコートフロアブルは、眼に刺激性があるので注意する。
- 3 QoI剤（1 1）、SDHI剤（7）は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。
- 4 薬剤耐性菌が出現しやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

### 防除方法

- 1 ハウス内の換気を良好にし、過湿にならないように注意する。
- 2 開花後の花卉をとり、病原菌の侵入を防ぐとともに被害葉・被害果実を早めに除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 3 発生が見込まれる時期に、下記の薬剤を予防的に散布する。
  - ・ [ベルコートフロアブル](#) M 7 【4000倍 前日／2回】
  - ・ [フルピカフロアブル](#) 9 【2000～3000倍 前日／4回】
- 4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [ロブラール水和剤](#) 2 【1000～1500倍 前日／3回】
  - ・ [ゲッター水和剤](#) 1 0 1 【1500倍 前日／3回】
  - ・ [アフェットフロアブル](#) 7 【2000倍 前日／3回】
  - ・ [ファンタジスタ顆粒水和剤](#) 1 1 【2000～3000倍 前日／3回】
  - ・ [カリグリーン](#) NC 【800倍 前日／ー】
- 5 ハウス内では、くん煙剤の使用も有効である。（XⅡ省力安全防除 1(1)参照）

## うどんこ病

### 留意事項

- 1 乾燥条件で、気温20～25℃で発生が増える。
- 2 多発時には、防除が困難であるため、予防的散布が大切である。
- 3 ベルコートフロアブルは眼に刺激性があるので注意する。
- 4 SDHI剤（7）は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。
- 5 薬剤耐性菌が出現しやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

## 防除方法

- 1 窒素質肥料の過用を避ける。
- 2 ハウス内では適度のかん水を行い、過乾を避ける。特に温風暖房を行うところでは注意が必要である。
- 3 被害茎葉は、早めに除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 4 発生が見込まれる時期に、下記の薬剤を予防的に散布する。
  - ・ [ダコニール1000](#) M5 【1000倍 前日／2回】
  - ・ [ベルコートフロアブル](#) M7 【4000倍 前日／2回】
  - ・ [イオウフロアブル](#) M2 【500～1000倍 発病前～発病初期／－】
- 5 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [パンチョTF顆粒水和剤](#) 3 U6 【2000倍 前日／2回】
  - ・ [パレード20フロアブル](#) 7 【2000～4000倍 前日／3回】
  - ・ [カリグリーン](#) NC 【800～1000倍 前日／－】

## 菌核病

### 留意事項

- 1 気温20℃前後、多湿条件で発生が多い。
- 2 QoI剤 (11)、SDHI剤 (7) は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

### 防除方法

- 1 ハウス栽培では、換気に努める。
- 2 加温栽培では、夕方早めに加温する。
- 3 被害株は早めに除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [ゲッター水和剤](#) 10 1 【1500倍 前日／3回】
  - ・ [トップジンM水和剤](#) 1 【1500～2000倍 前日／5回】
  - ・ [ファンタジスタ顆粒水和剤](#) 11 【2000～3000倍 前日／3回】
  - ・ [パレード20フロアブル](#) 7 【2000～4000倍 前日／3回】
  - ・ [ピクシオDF](#) 17 【2000倍 前日／4回】

## ウイルス病

### 留意事項

- 1 キュウリモザイクウイルス (CMV) やトマトモザイクウイルス (ToMV)、トマト黄化えそウイルス (TSWV)、トマト黄化葉巻ウイルス (TYLCV) などがある。
- 2 キュウリモザイクウイルス (CMV) はアブラムシ類や病汁液によって伝搬される。
- 3 トマトモザイクウイルス (ToMV) は土壌や被害残さ、種子、病汁液によって伝搬

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

される。

- 4 トマト黄化えそウイルス(TSWV)はアザミウマ類によって伝搬される。
- 5 トマト黄化葉巻ウイルス(TYLCV)はタバココナジラミによって伝搬される。

#### 防除方法

- 1 苗床は、寒冷しゃで被覆し、アブラムシ類及びアザミウマ類、タバココナジラミなどの侵入を防ぐ。
- 2 被害株は早めに除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 3 アブラムシ類(キュウリモザイクウイルス(CMV))、アザミウマ類(トマト黄化えそウイルス(TSWV))、タバココナジラミ(トマト黄化葉巻ウイルス(TYLCV))の防除に努める。
- 4 ハサミ等による芽かきによりウイルスが伝搬する可能性が高いので、発病が疑われる株の芽かきは後回しにする。(キュウリモザイクウイルス(CMV)、トマトモザイクウイルス(ToMV))

## アブラムシ類

#### 留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。
- 2 ダントツ粒剤の成分クロチアニジンの総使用回数は、4回以内(但し、育苗期の株元処理及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計3回以内)。

#### 防除方法

- 1 露地栽培では、シルバーポリフィルムでマルチングする。
- 2 下記の薬剤を施用する。
  - ・ [ダントツ粒剤](#) **4 A** 【1g/株 株元処理 育苗期/1回】または  
【1~2g/株 植穴処理土壌混和 定植時/1回】
  - ・ [ベリマークSC](#) **2 8** 【400株あたり25ml かん注 育苗期後半~定植当日/1回】
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を施用する。
  - ・ [コルト顆粒水和剤](#) **9 B** 【4000倍 前日/3回】
  - ・ [ウララDF](#) **2 9** 【2000~4000倍 前日/3回】
  - ・ [モベントフロアブル](#) **2 3** 【2000倍 前日/3回】
  - ・ [トランスフォームフロアブル](#) **4 C** 【2000倍 前日/2回】

## オオタバコガ

#### 留意事項

- 注1: 同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
- 注2: 異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。



- 1 多犯性で、多くの作物を加害する。
- 2 果実の食入孔の中にいるため薬剤がかかりにくく、さらに老齢幼虫には薬剤の効果が劣るため、早期発見に努め、若齢幼虫時に防除する。

#### 防除方法

- 1 幼虫の捕殺は、被害軽減効果が大きい。
- 2 摘除した茎葉や果実にも、卵や若齢幼虫が付着していることがあるので、ほ場から持ち出し処分する。
- 3 ハウス開口部に寒冷しゃや防虫ネット（目合い4mm以下）を張り、成虫の侵入を防ぐ。
- 4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [グレースシア乳剤](#) 30 【2000倍 前日／2回】
  - ・ [アフーム乳剤](#) 6 【2000倍 前日／5回】
  - ・ [プレバソンフロアブル5](#) 28 【2000倍 前日／3回】
  - ・ [プレオフロアブル](#) UN 【1000倍 前日／2回】
  - ・ [BT剤](#) 11A（IX 野菜類の病害虫防除 3野菜類 参照）

## ハスモンヨトウ

#### 留意事項

- 1 若齢幼虫の防除に重点を置く。卵塊や集団でいる時の防除に努める。
- 2 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。

#### 防除方法

- 1 ハウス開口部に寒冷しゃや防虫ネット（目合い4mm以下）で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [グレースシア乳剤](#) 30 【2000倍 前日／2回】
  - ・ [ディアナSC](#) 5 【2500～5000倍 前日／2回】
  - ・ [プレオフロアブル](#) UN 【1000倍 前日／2回】
  - ・ [アクセルフロアブル](#) 22B 【1000～2000倍 前日／3回】
  - ・ [アニキ乳剤](#) 6 【2000倍 前日／3回】
  - ・ [BT剤](#) 11A（IX野菜類の病害虫防除 3野菜類 参照）

## コナジラミ類

#### 留意事項

- 1 オンシツコナジラミ、タバココナジラミが発生する。
- 2 タバココナジラミはTYLCV（トマト黄化葉巻ウイルス）を伝搬する。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- 3 多発すると、すす病が発生する。
- 4 オンシツツヤコバチの放飼前後は農薬散布を控える(XVI 参考資料参照)。
- 5 スタークル粒剤、アルバリン粒剤の成分(ジノテフラン)の総使用回数は、5回以内(但し、培土混和及びかん注は合計1回以内、育苗期の株元散布は1回以内、定植時の土壌混和は1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計2回以内)。

### 防除方法

- 1 ハウス開口部に防虫ネット(目合い0.4mm以下)を張り、成虫の侵入を防ぐ。
- 2 栽培終了後、ハウスを密閉し、ハウス内の作物残さや雑草に残る虫を殺す。
- 3 発生初期に、天敵寄生蜂のオンシツツヤコバチを放飼する。
  - ・ [エンストリップ](#) —(生)  
【野菜類(施設栽培) 25~30株当たり1カード 放飼 発生初期/—】
  - ・ [ツヤコバチEF30](#) —(生)  
【野菜類(施設栽培) 10a当たり80枚 放飼 発生初期/—】
- 4 下記の薬剤を施用する。
  - ・ [ベリマークSC](#) 2 8  
【400株当たり25ml かん注 育苗期後半~定植当日/1回】または  
【400株当たり25ml 株元かん注 定植直後/1回】
  - ・ [スタークル粒剤](#)、[アルバリン粒剤](#) 4 A  
【10g/培土1L 培土混和 は種前/1回】  
【1~2g/株 株元散布 育苗期/1回】  
【1~2g/株 植穴土壌混和 定植時/1回】  
【1g/株 株元散布 生育期(前日)/2回】
- 5 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [グレーシア乳剤](#) 3 0 【2000倍 前日/2回】
  - ・ [アフーム乳剤](#) 6 【2000倍 前日/5回】
  - ・ [ディアナSC](#) 5 【2500倍 前日/2回】
  - ・ [コルト顆粒水和剤](#) 9 B 【4000倍 前日/3回】
  - ・ [トランスフォームフロアブル](#) 4 C 【1000~2000倍 前日/2回】
- 6 ハウス内では、くん煙剤の使用も有効である。(XII 省力安全防除 1(1) 参照)

## ハダニ類

### 留意事項

- 1 マイトコーネフロアブル、サンクリスタル乳剤は、天敵に対する悪影響が少ない。
- 2 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。

注1: 同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2: 異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。



## 防除方法

- 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [マイトコーネフロアブル](#) 20D 【1000倍 前日／1回】
  - ・ [サンクリスタル乳剤](#) — 【300～600倍 前日／—】
  - ・ [ダブルシューターSE](#) 5 — 【1000倍 前日／2回】

## トマトサビダニ

## 留意事項

- 1 マイトコーネフロアブルは、天敵に対する悪影響が少ない。

## 防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [マイトコーネフロアブル](#) 20D 【1000倍 前日／1回】
  - ・ [グレースシア乳剤](#) 30 【2000倍 前日／2回】
  - ・ [アフーム乳剤](#) 6 【2000倍 前日／5回】
  - ・ [モベントフロアブル](#) 23 【2000倍 前日／3回】

## ハモグリバエ類

## 留意事項

- 1 マメハモグリバエ、トマトハモグリバエなどが発生する。
- 2 ハウス内では一年中発生する。
- 3 スタークル粒剤、アルバリン粒剤の成分（ジノテフラン）の総使用回数は、5回以内（但し、培土混和及びかん注は合計1回以内、育苗期の株元散布は1回以内、定植時の土壌混和は1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計2回以内）。

## 防除方法

- 1 育苗期の防除を徹底し、本ほに被害苗を持ち込まない。
- 2 ハウスの開口部に寒冷しゃや防虫ネット（目合い0.8mm以下）を張り、成虫の侵入を防ぐ。
- 3 被害葉は早めに除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 4 ほ場内や周辺部の除草を徹底する。
- 5 下記の薬剤を施用する。
  - ・ [スタークル粒剤](#)、[アルバリン粒剤](#) 4A
    - 【1～2g／株 株元散布 育苗期／1回】
    - 【1～2g／株 植穴土壌混和 定植時／1回】
- 6 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [ベネビア0D](#) 28 【2000倍 前日／3回】
  - ・ [アフーム乳剤](#) 6 【2000倍 前日／5回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- ・ [ディアナSC](#) 5 【2500～5000倍 前日／2回】
- ・ [プレオフロアブル](#) UN 【1000倍 前日／2回】

## トマトキバガ

### 留意事項

- 1 令和5年10月に特殊報を発出した。
- 2 トマト、なす、ピーマン、とうがらし類などのなす科植物で発生する。

### 防除方法

- 1 施設栽培では、開口部に防虫ネットを展張し、侵入を防止する。
- 2 被害葉や被害果実はほ場に設置せず、速やかに持ち出し、適切に処分する。
- 3 発生を確認したら、下記の薬剤を施用する。
  - ・ [アフーム乳剤](#) 6 【2000倍 前日／5回】
  - ・ [プレオフロアブル](#) UN 【1000倍 前日／2回】
  - ・ [グレーシア乳剤](#) 30 【2000倍 前日／2回】
  - ・ [コテツフロアブル](#) 劇 13 【2000倍 前日／3回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。